

第7章 駒林遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

駒林遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地し、標高 12 ～ 15 m 前後の平坦地を形成する。もともと遺跡の範囲は南北 300 m、東西 800 m の範囲であったが、2002 年から 2004 年に行った駒林土地区画整理事業に伴う試掘調査の結果、大溝を検出した南北 160m、東西 80m の範囲に遺跡を縮小し、さらに地下式坑を検出した周辺を駒林新田前遺跡として独立させ、新たな包蔵地として 2004 年 3 月に追加した。第 3 地点で検出した溝と過去の試掘調査で検出した溝の配置を再検討した結果、一辺 140 ～ 160m の台形区画に溝が巡る事が明らかとなり、2008 年 2 月に遺跡範囲の変更増補を行った。区画整理後は開発が進み、宅地と商業地に変貌を遂げ部分的に畑が残っている。

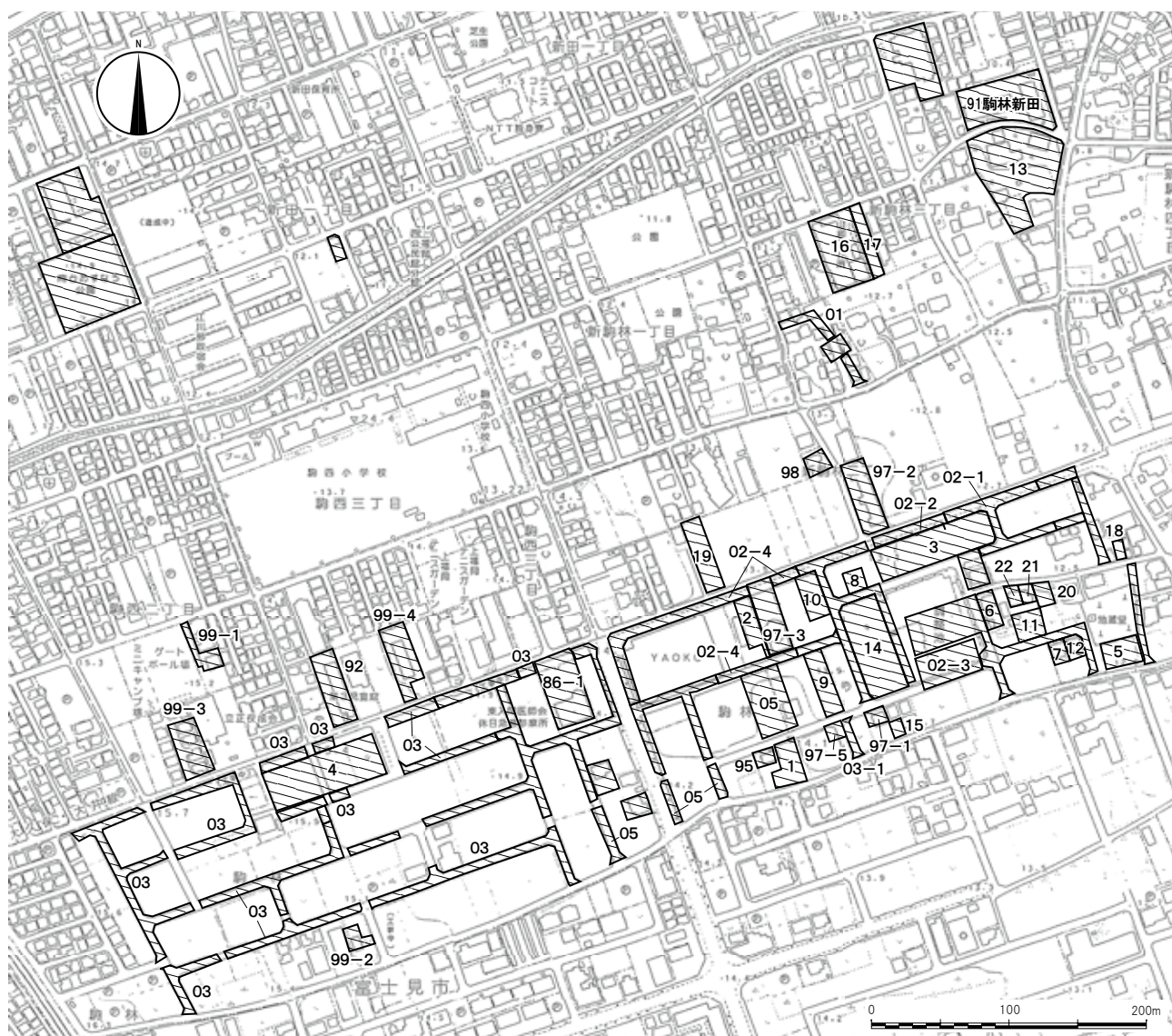
周辺の遺跡は、北側に葺石と板碑を検出した駒林中世墳墓、東側に地下式坑を検出した駒林新田前遺跡、500m 下流に福岡新田遺跡、南側にも地下式坑を検出した富士見市の稲荷久保北遺跡がある。2002 年以降の試掘調査の結果、幅 5 m、深さ 2 m の大溝や茶毘跡、縄文時代の集石土坑等を検出する。

II 駒林遺跡第 11 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅の建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が 2010 年 3 月 1 日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南東部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は同年 4 月 12 日から 21 日まで、幅約 1



第 39 図 駒林遺跡の地形と調査区 (1/5,000)

～1.5 mのトレンチ4本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。遺構らしき覆土3ヶ所を検出したので確認したが、遺物の出土はなく、時期不明のピットであった。遺構確認面までの深さは約60 cmである。写真撮影・全測図作成等記録保存を行い、

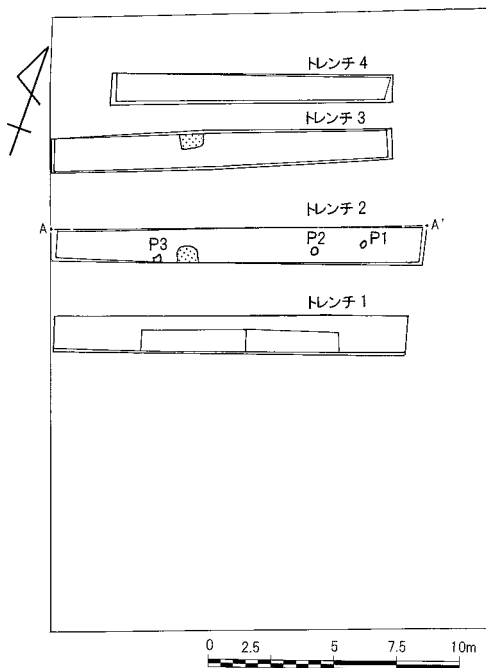
埋め戻して調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

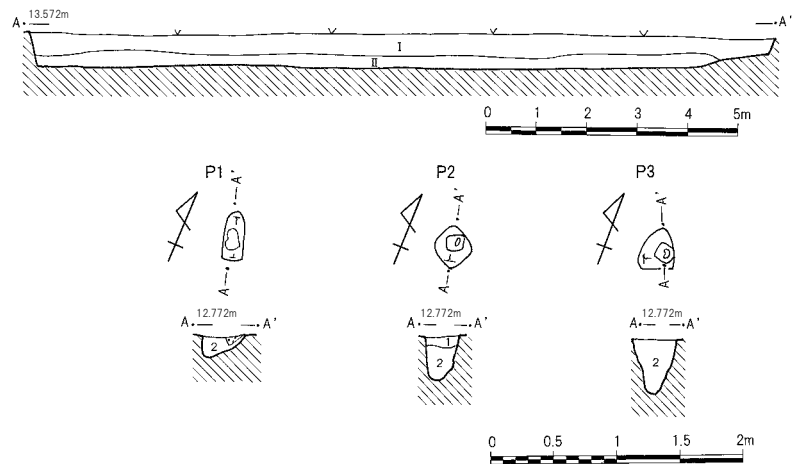
①ピット

3基検出した。出土遺物なく時期不明。

11 地点

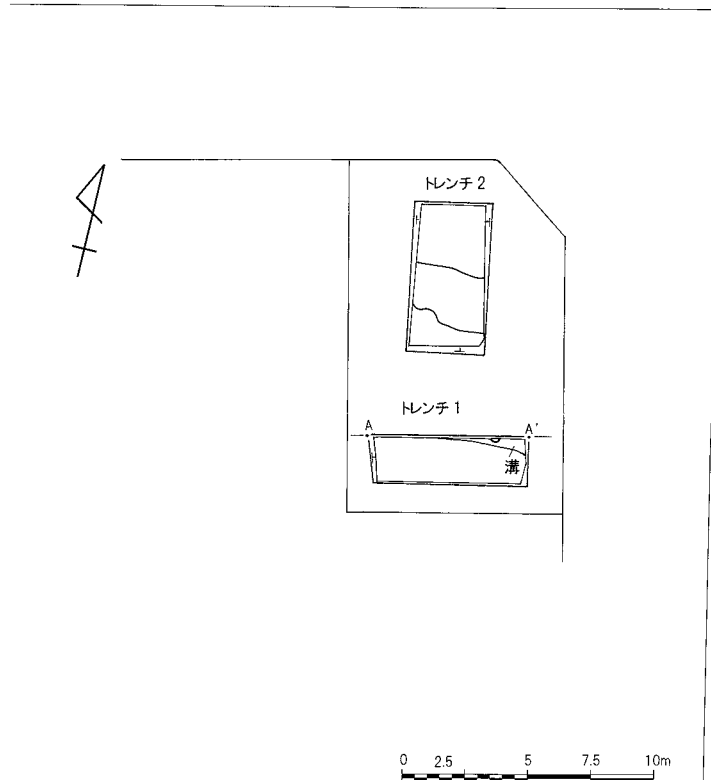


トレンチ 2

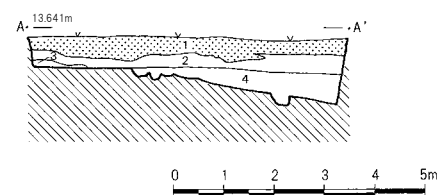


- I. 黒色土 締り弱、粘性有、表土耕作土
 II. 黒色土＋褐色土 締り弱、粘性有、地山ロームベースに10cm以下黒色土ブロックを多く斑状に含む、耕作土が天地返しの土とみられる
 III. 黒褐色土 締り強、粘性有、地山のソフトロームが黒色土化している
- ピット
 1. 黒色土 締り弱、粘性有、ロームブロック(1.5cm以下)・粒(1mm以下)多く含む
 2. 黒色土 締り弱、粘性有、1層より黒色で、ローム粒(1mm以下)やや少ない他は層に同じ

12 地点



トレンチ 1



1. 客土 ローム・粘土塊を含む盛土
 2. 軟質でスカスカしている、溝を覆っている黒褐色土
 3. ローム混じる茶褐色土 締り有、やや緻密
 4. 2層よりやや締る程度で、ロームもブロック状に含む、2層とのボーダーは判断しづらいが2層より黒色を呈している

第40図 駒林遺跡第11・12地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、ピット(1/60)

Ⅲ 駒林遺跡第12地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅の建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年7月2日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南東部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は同年7月14日に行い、幅約2mと3mのトレンチを1本ずつ設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。遺構らしき覆土を検出したので確認した結果、調査区東側の5地点で検出した大溝と連続する可能性のある東西方向の溝であった。遺構確認面までの深さは約90cmであり、30cmの保護層が確保できるため、遺構保存を行うこととした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行い、埋め戻して調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

①溝1

東西方向に位置する。大溝として東側の第5地点の溝に続くと思われる。上幅7m、深さは確認していない。ロームブロックが混入する黒色土で覆われる。

Ⅳ 駒林遺跡第13地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2009年11月9日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の北東部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2010年7月27日から29日まで、幅約1.5mのトレンチを5本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。遺構らしき覆土を検出したので確認した結果、柵列状に並ぶピット群や土坑であった。土坑からは瓦や鉄滓が出土した。遺構確認面までの深さは約100～130cmであり、30cmの保護層が確保できるため、遺構保存を行うこととした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行い、埋め戻して調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

①土坑

2基検出した。土坑2は平面長方形を呈し、暗褐色

土と黒褐色土が薄い層をなして堆積する。近世丸瓦と製鉄関連の炉壁片出土。

②ピット

11基検出した。締りのある黒褐色土で埋まり、柵列状で南北方向に並ぶ。

第26表 駒林遺跡第11地点 ピット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	楕円形	39 × 16	19 × 12	23.8	
P2	方形	29 × 28	8 × 4	35.6	
P3	方形	33 × (24)	7 × 5	49.0	

第27表 駒林遺跡第13地点 土坑一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
土坑1	不明	(118) × (46)	(27) × (9)	57.1	
土坑2	長方形	(109) × 97	(102) × 88	45.3	

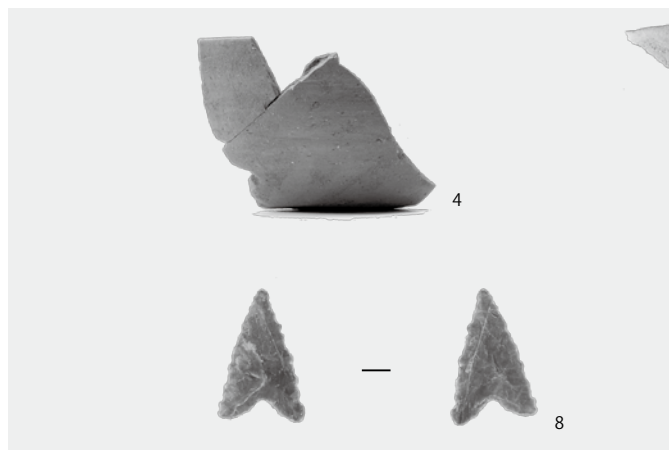
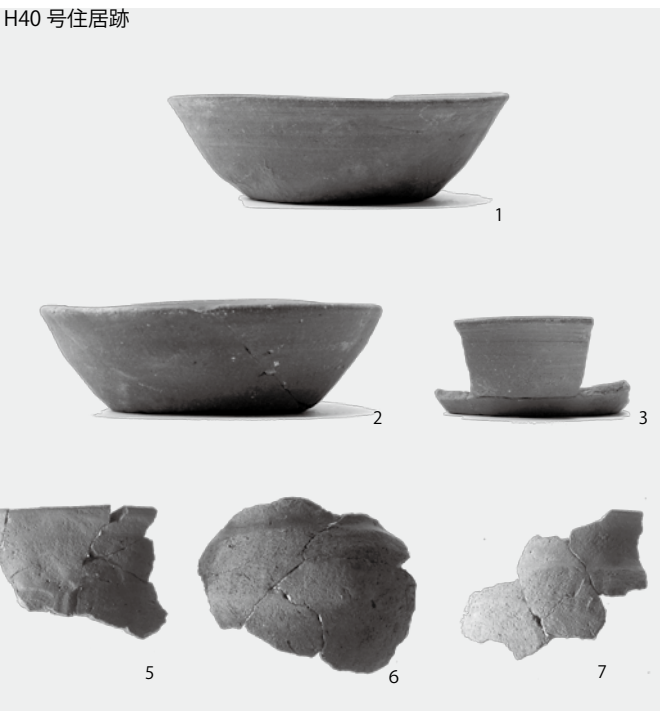
第28表 駒林遺跡第13地点 ピット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	不整形	50 × 31	15 × 14	25.6	
P2	方形	42 × 33	11 × 9	35.2	
P3	方形	25 × 20	15 × 13	30.5	
P4	不明	(28) × (13)	(12) × (5)	31.3	
P5	方形	27 × 27	10 × 8	16.9	
P6	方形	26 × 26	19 × 12	16.2	
P7	円形	28 × 23	17 × 10	15.2	
P8	方形	58 × 55	30 × 16	20.7	
P9	方形	27 × 26	14 × 13	24.5	
P10	方形	30 × 23	18 × 14	37.2	
P11	欠番				
P12	方形	28 × 26	15 × 14	31.1	



松山遺跡第 55 地点調査風景

H40 号住居跡



松山遺跡 55 地点出土遺物

土坑 1



東久保遺跡第 69 地点



駒林遺跡第 11 地点トレンチ 2



駒林遺跡第 11 地点トレンチ 3



駒林遺跡第 12 地点溝 1